

子どもはいつも 置かれた場所で咲いている

私は、教師になって、忙しく行事に追われる日々や授業準備、学級事務に疲れていた時に、先輩の先生から「しんどいことでも、どうせやらないといけないんなら楽しんでやった方がいいよ」と言われて、それ以来、「どうせやるなら楽しんでやろう」を大切にして、いろいろなことに取り組んできました。そうすると、授業を楽しくするアイデアが出てきたり、嫌々だと時間がかかっていたことも早く終わらせることができたりしました。

そんな思いのおかげもあって、子どもといるのが楽しいと思える日々を長く送っていました。しかし、6年前に教育研究所(現 あかし教育研修センター)に配属が決まって、子どもと離れるさみしさを感じていたときに出会ったのが、「置かれた場所で咲きなさい」という言葉でした。この言葉は、残念ながら2年前になくなられたのですが、出版当時ノートルダム清心学園理事長 渡辺和子さんが6年前に出された本の題名です。私は、この「置かれた場所で咲きなさい」という言葉に出会って、「多くの子どもと接する先生の力を伸ばすことに関われることで、1人の先生の力が伸びれば、その向こういる学級の40人の子どもが楽しく学べるんだ。これってすごいことだ。だから、ここでがんばることは、子どもの笑顔を今まで以上に増やすことだ。」と思わせてくれた大好きな言葉です。

どんな仕事をする際も、「置かれた場所で咲きなさい」と考え、少しでも楽しんでみようとする、つらい仕事も輝いて見えてきたり、咲くために楽しんでやろうと思えてきたりしませんか。このことは、学校の子どもたちも同じだと思います。子どもは遊びの天才とよく言われます。それは、どんなことでも楽しんでやれる力があり、その場にあった対応を自然と身に付けているからではないでしょうか。子どもは、学級、班、その時の授業で、その場その場で一生懸命取り組みます。すなわち、「自分が置かれた場所で一生懸命に頑張っ



ています。

同時に、ご家庭でも、子どもの小さいかもしれない一歩一歩のあゆみに目を向けていただき、その時その時に「置かれた場所で咲いている」ことを認めてほめてあげてもらえれば、その子はまた大きな一歩を歩めるのではないのでしょうか。

「置かれた場所で咲きなさい」そんな言葉を心に、子どもの成長を学校と家庭が協力して見守っていけるように、今後ともご協力をお願いいたします。
(学校長 玉田 絹夫)